

**2022年3月期 第2四半期  
決算発表 質疑応答**

(受注について)

**Q1. 下期の受注の見通しを教えてください。**

A1. 9月の緊急事態宣言の解除、新型コロナウイルスの新規感染者の減少を踏まえ、11月から支店の出社率の上限を70%に引き上げ、営業活動に関する制約も緩和しています。これらによりダイレクトセールスを活性化し、4800億の受注獲得に向け邁進してまいります。

**Q2. 営業担当者数が前年同期比で減少していますが、採用状況等について教えてください。  
(決算説明会資料 p16)**

A2. 今期は採用基準の変更や募集費の投下などにより一定数の採用ができております。継続して採用活動に注力してまいります。

**Q3. 融資環境について状況を教えてください。  
(決算説明会資料 p52)**

A3. アパートローンを前向きに検討いただける金融機関が増加していることなどから、一時期に比べ融資環境は好転してきていると認識しています。

**Q4. 受注の内訳において、中層比率が増加している理由を教えてください。  
(決算説明会資料 p17)**

A4. 3階建て以上の新商品をリリースし、販売が順調に推移しているためです。

**Q5. 新規顧客からの受注割合が、前期比で上昇している背景を教えてください。  
(決算説明会資料 p19)**

A5. 前期はコロナ禍において投資を控えていた方が、今期は賃貸建物事業に前向きに決断いただけていると認識しています。

**Q6. 生産緑地に対する取り組みや受注見通しを教えてください。**

A6. 生産緑地をターゲットとした営業施策などは特に実施しておりません。必要に応じて個別相談会などで対応しております。なお、今期の受注へのプラス効果は大きくは見込んでおりません。

(完成工事高・完成工事総利益について)

Q 7. 上期の完成工事総利益は繰延利益の影響により計画比で1.5p改善していますが、通期の見通しを教えてください。

A 7. 上期は大東ファイナンスによる2次融資案件の減少および金融機関への借り換えなどにより想定よりも完成工事総利益が増加しました。下期は大東ファイナンス案件の減少については計画に織り込み済みであり、上期ほど利益改善効果はないと考えています。

Q 8. ウッドショックの影響額について教えてください。

A 8. ウッドショックの影響により上期実績は20億、下期見通しは80億の原価増加となります。

Q 9. 木材の先物価格は低下していますが、来期以降の完成工事総利益への影響について教えてください。

A 9. 先物価格は低下しておりますが、当社買付価格のもととなる現地価格は高値で推移しています。来期の総利益は今後の木材価格により変動します。引き続き注視してまいります。

(見通しについて)

Q10. 上期業績は上方修正となりましたが、通期計画は据え置いた理由と見通しを教えてください。

A10. 下期は不動産事業が好調に推移する一方で、建設事業においてウッドショックによる原価高騰の影響をうけるため、通期計画は据え置きました。なお、業績予想の修正が必要となった場合は速やかに開示いたします。

(その他)

Q11. 原油や天然ガスの価格上昇によりガス供給事業への影響があるか教えてください。

A11. ガスの仕入れ価格は上昇しており、今期のガスパル利益計画については当初計画を割り込むと予想しております。グループ全体に対しての影響は大きなものではなく十分カバーできると認識しております。

Q12. 脱炭素化にむけた取り組みを教えてください。

A12. LCCM賃貸集合住宅を開発しました。現在は想定したCO2削減効果の実証実験や商品化に向け検討を重ねています。

- Q13. 新規事業や新規投資案件の進捗状況を教えてください。また、よい投資案件が無い場合、再び株主還元する可能性はありますか。
- A13. スタートアップ企業との協業や、社内ベンチャーコンテストなどにより、コアビジネスとのシナジーを見込める新規事業を推進しております。  
また新規投資については、建設事業や不動産事業において当社グループを補完できる事業や会社への資本出資やM&Aを検討しております。

以上